

脳血管内治療

31-1 脳神経外科（学内講師） 白神 俊祐

1. 脳血管内治療とは

脳血管内治療は、脳の血管にできたこぶ（脳動脈瘤と言い、破裂するととも膜下出血になります）や、脳を養う大事な血管である頸動脈の狭窄（細くなって流れにくくなり、進行すると脳梗塞をおこすことがあります）などに対し、メスを使った開頭手術でなく、カテーテルを用いて血管内経由で行う手術です。

2. 脳血管内治療の手術法

多くは、局所麻酔で下肢（大腿部）の血管にカテーテルを挿入し造影剤という放射線で血管を映し出す薬を使用し、血管を撮影しながら治療を行います。

・**脳動脈瘤の治療**は、細いカテーテルを動脈瘤内に慎重に入れて、形状記憶でできた特殊な金属でできたコイルというもので動脈瘤内に置いてきます。未破裂脳動脈瘤の場合は、破裂をしないよう予防する手術になり、破裂しても膜下出血をおこした脳動脈瘤にも同様に再破裂をしないように治療を行います。

・**頸動脈狭窄の治療**は、狭窄した血管にバルーンという風船で血管を拡張させて、ステントという特殊な金属でできた管を狭窄部に留置して血管を拡張させ、脳梗塞を予防します。

その他、硬膜動静脈瘻、脳動静脈奇形、脳腫瘍などの病気に対しても治療をおこなうことがあります。

3. 脳血管内治療の利点

開頭手術などの外科的治療は、確実に治療を行うことができますが、全身麻酔をかけないといけない、頭の皮膚を切開し頭蓋骨に穴をあける、手術中に脳や神経などを圧迫するなどの侵襲が大きく、身体には大きな負担がかかってしまいま

す。脳血管内治療は、局所麻酔で血管の中からカテーテルという細い管をいれて病変部の治療を行うことができ、身体への負担をかなり軽減することができます。また、経過が良好であれば1週間程度で退院することも可能です。髪の毛を切ったり、頭皮に傷がついたりしないため、見ただけでは手術をしてきたのかどうかも分かりません。脳神経外科の外来前のソファーには、以前手術を受けた患者さんも来られていますが、今ではどの人が手術を受けたのか分からない状態となりました。

また、脳血管内治療で使用する器具、道具は日々進歩し、外科的治療に負けない成績が報告されるようになっています。病気によっては、血管内治療が優先されて治療を行うことも多くなっておりります。

詳細につきましては、外来Aブロックの脳神経外科を受診していただき、専門医にお尋ねください。